

『まんが王国とっとり』の先駆け

となりのヘンリー 木山義喬展

ヘンリーと呼ばれた芸術家、ご近所を描く。



高い描写力で描かれた作品の数々に、 よしたか 義喬の功績をしのぶ

国内外で高い評価を受けた芸術家・木山義喬の未発表の作品など、約60点を展示した『まんが王国とっとり』の先駆け となりのヘンリー 木山義喬展」が、10月30日から11月3日までの5日間、日野町山村開発センターで開かれ、延べ約500人が油彩画やデッサン、愛用の品々などに見入りました。また、代表作「漫画四人書生」の原画や初版本といった貴重なものや、ふるさと・根雨の人々をユーモラスに描いた風刺画なども展示され、思い出話でにぎわう来場者の姿が見られました。

漫画家の先駆け、木山義喬

今年の3月に義喬の子孫にあたる木山賢一さん（根雨）から、町の文化振興などに役立ててほしいと、自宅に保存されていた油彩画や風刺画、デッサンなど38点を町に寄贈されたのが、今回の展覧会のきっかけです。

義喬（1885年～1951年）は根雨出身で、国内外から高い評価を受けた洋画家です。絵画研究のため19歳でアメリカ・サンフランシスコへ渡り、英語名をヘンリーと名乗ります。

サンフランシスコ美術学校で学び、ハウスボーイ（家庭の雑用係）などをしながら生活を支え、数々の絵画コンクールで入賞するなど活躍の場を広げていきます。

そのアメリカでの実体験を基に、日本人移民の生活をコミカルに描いた義喬の代表作『漫画四人書生』を昭和6年に出版。漫画家の先駆けと言



木山義喬

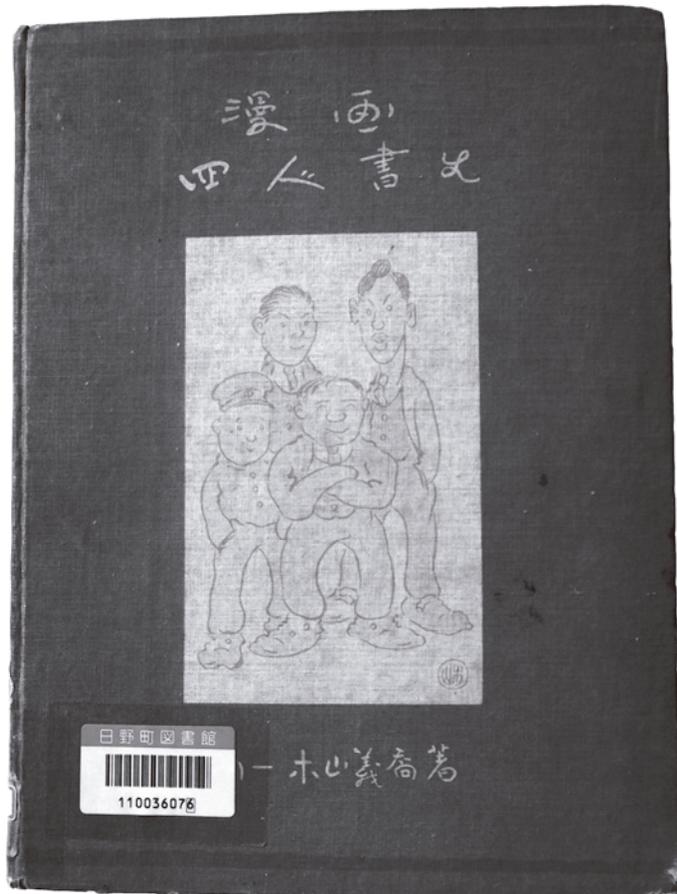
えることから、町では、寄贈された作品を多くの人に見てもらおうと展覧会を計画していたところ、今年、鳥取県が「まんが王国とっとり」建国を宣言し、国際まんが博を開催。その協賛事業に採択され、開催が実現しました。

待ちに待ったとにぎわう展覧会
展覧会は、義喬が取り組んだ作品ごとに5つのコーナーに分けて展示し、その世界を堪能できるよう工夫されました。

はじめに展示されていたのは10点の油彩画で、義喬の描写力と豊かな色彩が味わえます。その中でも、最大の油彩画「扇子を持つ女性像」に、来場者の誰もが足を止め、存在感に釘付けとなります。

次に展示されたのは人物を緻密に描写した5点のデッサン。木炭を使い、影の濃淡など、高い描写力に圧倒されま

▼展示された作品の一部を紹介します



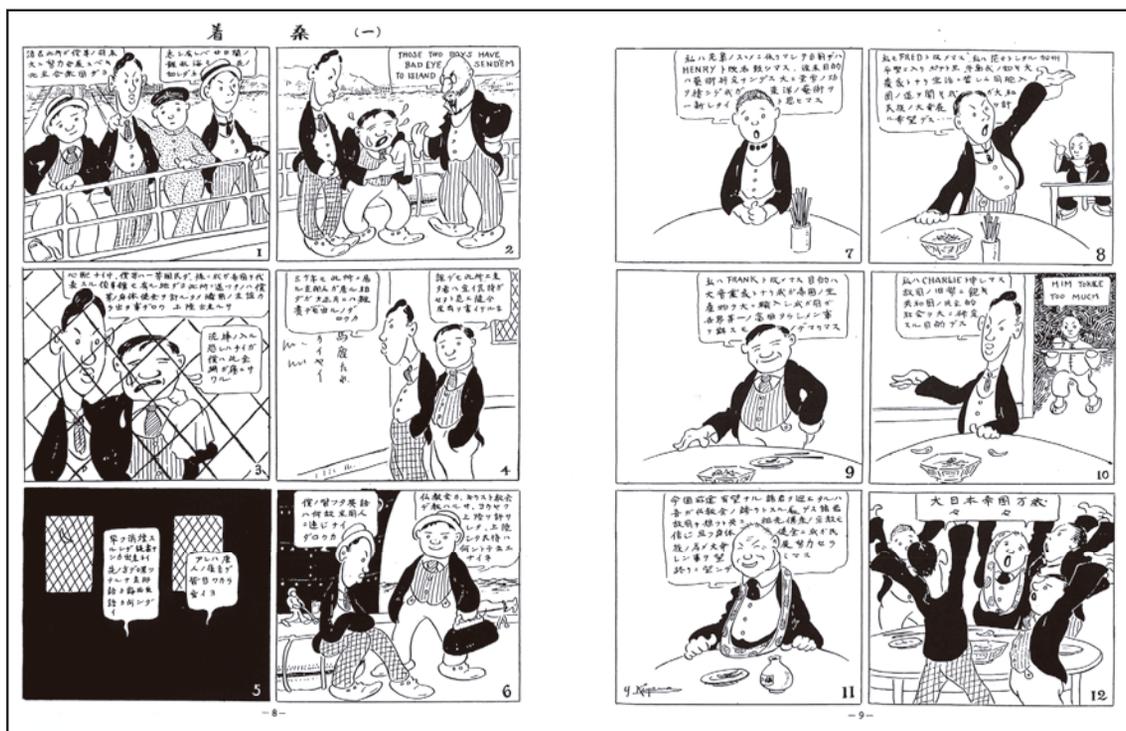
ヘンリー木山義喬著

《漫画四人書生》初版本

1931（昭和6）年発行 25×20×2cm

1927（昭和2）年、自らの渡米経験を描いた漫画「北米移民史」を、4年後に「漫画四人書生」と改題し、出版したもの。登場する4人の書生の一人、ヘンリーはもちろん義喬がモデル。あとのフレッド、フランク、チャーリーも義喬の友人たちである。4人が異国で苦勞しながら夢をつかむまでを描いているが、当時のアメリカの世相や出来事もふんだんに取り入れられており、移民史として、また歴史資料としても貴重な作品である。

日野町図書館蔵



《漫画四人書生》第一話「着桑」52話に及ぶ物語の第一話は、4人の日本人書生がサンフランシスコ港に到着したところから始まる。ヘンリーは芸術研究、フレッドは大農家、フランクは実業家、チャーリーは民主的社会的の研究と、それぞれの渡米目的を述べ、この長編物語の幕が開く。

そして、代表作『漫画四人書生』が展示されたスペースでは、初版本や、米子市美術館所蔵の第一話の原画など貴重な品々が並びます。

「漫画四人書生」は、義喬と友人たち4人が主人公。20世紀初めのアメリカの世相や出来事が描かれ、移民史として、また歴史資料としてアメリカでは授業の教材として使われているそうです。

また、この展覧会で来場者をとりこにしているのが、愛するふるさと・根雨の人々を描いた20点の風刺画です。

アメリカで磨かれたデッサン力で、根雨の有名人たちが痛烈な風刺とともにそっくりに描かれた絵姿を見た来場者の多くが笑顔に。「懐かしいなあ」「よう似とる」と会話が弾みます。

漫画の活用にも多くの人が期待

義喬を知る人も、この度初めて知る人も「良い物を見せてもらった」と、高い描写力の作品の数々に満足し会場を後にしていました。義喬の作品を活用した今後の取り組みに期待が集まります。